

中播磨支部運営委員会

播磨OH!

～HARIMA～



68号

発行責任者
支部長 富田徹矢
機関誌担当 鴨谷和明



2025年9月発行



支部長挨拶



中播磨支部長

厚生病院 富田 徹矢

残暑の候、会員の皆様方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、兵庫県理学療法士会中播磨支部の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、今年度最初の取り組みとなります第1回中播磨支部研修会には、多くの皆さまにご参加いただき、盛況のうちに終えることができましたこと、心より御礼申し上げます。ご多忙の中、ご参加くださった皆さまの学びに対する真摯な姿勢と熱意に触れ、私たち運営委員一同、次回の研修会開催にあたり、身が引き締まる思いです。本当にありがとうございます。研修会で得られた知識や技術が、皆さまの日々の臨床に活かされることを願っております。

また、年明けに控える新人発表会に先立ち、開催いたしました直前説明会には、多数の新人セラピストの方々にご参加いただきました。皆さんの真剣な眼差しからは、発表会にかける意気込みがひしひしと伝わってまいりました。新人発表会は、日頃の臨床での学びや研究の成果を発表する貴重な機会です。この経験は、皆さまの今後のキャリア形成において、大きな糧となることでしょう。発表に向けて準備を進めていらっしゃる新人会員の皆さま、どうぞお身体に気をつけて、最後まで頑張ってください。

今後も、本支部では皆さまの生涯学習を支援するため、多種多様な研修会を企画してまいります。特に、支部主催の症例検討会は、日々の臨床で直面する課題を共有し、参加者全員で解決策を探る貴重な場です。一人のセラピストとして悩みを抱え込むのではなく、皆さまの知見や経験を分かち合うことで、個人の成長はもちろん、地域医療全体の質向上にもつながります。活発な議論にご協力いただき、ご自身の学びを深めるためにも、ぜひ積極的にご参加いただけますと幸いです。

私たち中播磨支部は、100を超える施設と700名以上の会員を擁する、兵庫県下でも有数の大きな組織です。この広報誌は、そうした多くの会員たちが互いにつながり、学びを深めるための大切な架け橋となることを目指しています。この広報誌が、皆さまの日常の臨床や、支部活動への参加の一助となれば幸いです。

今後とも、中播磨支部の活動に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げ、広報誌の発行にあたってのご挨拶とさせていただきます。





運営委員紹介

副支部長

スポーツ活動支援班

段医院 木村公一

今年度より副支部長となりました段医院の木村公一です。支部長を支え中播磨支部の活性化を図るとともに、会員の皆様にとって支部の活動がより身近なものとして感じてもらえるように尽力していきたいと思っております。事務局も兼務しておりますので、支部に対するご意見やご要望などもお聞きし、反映できるように努めてまいります。

また昨年に引き続きスポーツ活動支援班も担当いたします。スポーツ活動班では毎年2月に開催される世界遺産姫路城マラソンをサポートしており、会員の先生方には救護所理学療法士としてご活動いただいております。今年度も安全で安心な大会運営が行えるよう皆様のご協力をいただけますと幸いです。普段スポーツに関わることが少ない先生や初めて参加される方でも安心して救護活動にあたれるよう、事前勉強会も実施する予定としております。スポーツ支援に興味のある方は是非ご参加・ご協力ください。

中播磨支部の活動にご協力お願い致します。

三士会・職能班

社会医療法人財団聖フランシスコ会 姫路聖マリア病院 小林優太

今年度で7年目になります姫路聖マリア病院の小林優太です。今年度も三士会合同啓発活動と管理者ネットワーク会議の担当をします。三士会合同啓発活動は、昨年・一昨年と夏休みに小学生を対象に車いす体験、骨標本を用いたクイズ、体力測定を行いました。今年度は秋に姫路駅北にぎわい交流広場の地下通路で開催を予定しております。通行人が多いところなので、1人でも多くの人に理学療法士という職業を啓発できればと思っています。

管理者ネットワークは、会議を毎年2回開催しております。昨年度は「よもやま会」を2回開催し、さまざまな議題に対してグループワークを行いました。「よもやま」とは、ざっくばらんにいろいろ話そうという意味があります。今年度も2回実施予定のため、積極的に参加して頂き他施設の方々と情報共有の場になればと思います。

今年度も中播磨支部の活動にご理解・ご協力を宜しくお願い致します。





運営委員紹介



新人教育班

社会医療法人 松藤会 入江病院 張間大生

新人教育を担当しております、入江病院の張間大生です。

本年度も中播磨支部新人発表会の運営を担当いたします。昨年度は現地開催に際し、皆様にご協力いただき誠にありがとうございました。

今年度も現地開催を予定しております。至らぬ点もあるかと存じますが、発表者の皆様が有意義な発表ができるよう、準備と支援に努めてまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本赤十字社 姫路赤十字病院 行山頌人

昨年に引き続き、新人教育班にて主に新人発表会の運営を担当させていただきます、姫路赤十字病院の行山頌人です。昨年は、数年ぶりの対面開催ということもあり、42名の新人理学療法士の皆様にご参加いただきました。皆様のご協力のおかげで、ポスター発表・口述発表共に無事に終了することができました。改めて、感謝申し上げます。この会が他病院の先輩方の考えに触れる機会、切磋琢磨できる同期・仲間との出会いに繋がれば嬉しいです。今年度は、ポスター発表のみの実施となりますが、皆様の積極的な参加をお待ちしています。学びを深める場としてぜひ活用してください。何かご不明な点や困ったことがあれば、どうぞ遠慮なく中播磨支部までご連絡ください。本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

研修班

医療法人 仁寿会 石川病院 田中匠

今年度も昨年度に引き続き、研修班を担当させていただきます。8月8日には徳島文理大学の長田悠路先生を講師にお迎えし、『もう絶対に転倒させない！～脳卒中患者が転倒するメカニズム別の治療アプローチの提案～』と題した研修会を開催いたしました。脳卒中患者の転倒リスクをメカニズム別に整理し、評価・治療の具体的手法をご提示いただき、日々の臨床に直結する大変有意義な学びの場となりました。研修会運営においては、未熟な点から会員の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、円滑かつ充実した研修会を提供できるよう努めてまいります。今後も、会員の皆様にとって知識や技術の向上につながる機会を企画し、臨床現場で即活用できる学びを共有できるよう尽力いたします。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。





運営委員紹介



広報

かんざき訪問看護ステーション 鴨谷和明

昨年度に引き続き今年度も広報を担当させていただきます、かんざき訪問看護ステーションの鴨谷和明と申します。昨年度は皆様の支援を頂きながら「第66・67号 播磨OH!」を発刊することができました。今年度も有意義な情報が皆様に提供できるように努力してまいります。昨年度は会員皆様が情報共有できる場として新人発表会後に懇親会を開催しました。よりよい時間を過ごすことができたと思っております。今年度も懇親会等の開催や機関誌での様々な取り組み・報告を行っていきたいと考えております。今年度もよろしくお願いいたします。

職能班・士会主催症例検討会

社会医療法人 松藤会 入江病院 田中佑弥

中播磨支部主催症例検討会と職能班を担当します、入江病院の田中佑弥です。2月に開催予定の症例検討会では、日々の臨床の中で感じている課題や工夫を共有し、参加者同士が学び合えるような場づくりを心がけていきたいと思っております。また、管理者ネットワークでは支部会員同士の繋がりを深めることで、現場の支え合いや情報交換のきっかけとなればと考えております。まだまだ未熟な点も多くございますが、皆さまと一緒に学び、成長していけるよう精一杯取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。





新任運営委員の紹介



会計

厚生病院 田村俊允

このたび、会計を担当させていただくことになりました厚生病院の田村俊允です。理学療法士として10年目を迎え、これまで回復期病棟、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、外来リハビリテーションと、多様な分野で経験を積んでまいりました。現場では、一人ひとりの生活背景や目標に合わせたリハビリテーションの提供を心がけ、退院後も地域で安心して生活できるよう支援してきました。今回、県士会の活動に関わる機会をいただき、日々の業務で得た経験を組織運営にも活かしていきたいと考えています。会計という立場から、会の活動が円滑に進むよう丁寧かつ正確な業務を心がけ、理学療法士の専門性向上と地域への貢献につながる活動を支えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

三士会・デジタル業務支援部

姫路中央病院 松本咲奈

このたび、兵庫県理学療法士会中播磨支部の運営委員を拝命いたしました、姫路中央病院の松本咲奈と申します。支部内では3士会啓発部を担当させていただくことになりました。理学療法士としてはまだ3年目で、経験も浅く至らない点も多くあるかと思いますが、支部の先生方を関わらせていただけるこの機会を大変嬉しく感じております。これまで病院での臨床業務を通じて、患者様やご家族、他職種との関わりの中から多くの学びを得てまいりました。今後はそうした経験を活かし、地域における理学療法の啓発や3士会の活動推進に少しでも貢献できるよう尽力してまいります。また、先生方からのご指導や助言を糧に、自身の知識・技術の研鑽にも励みたいと考えております。微力ではございますが、皆様のお役に立てるように精一杯取り組んでまいりますので、温かくご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。





中播磨ネットワーク会議



社会医療法人財団聖フランシスコ会 姫路聖マリア病院 小林優太

7月4日（金）の19時からハーベスト医療福祉専門学校で上半期の中播磨ネットワーク会議を開催しました。学生や1年目～管理者まで幅広い経験年数の24名の参加がありました。今回は、未来を創る集い広げよう「PTの輪」～日頃の疑問や悩みを共有～と題して、急性期、回復期など病期ごとに5グループに別れグループワークを行いました。各施設で工夫していることや困っていることなど、同じ病期のグループ内で情報交換し、最後に各グループで出た意見を報告しあいました。

中播磨ネットワーク会議は毎年2回開催しており、中播磨支部内での横つながり（ネットワーク）構築を主な目的に開催しています。次回の開催日時は未定ですが、下半期に開催予定ですので、ご参加をお待ちしております。





第1回中播磨支部研修会

医療法人 仁寿会 石川病院 田中匠

8月8日に開催された研修会『もう絶対に転倒させない！～脳卒中患者が転倒するメカニズム別の治療アプローチの提案～』では、徳島文理大学の長田悠路先生を講師にお迎えし、脳卒中片麻痺患者の転倒場面の動画を基に、その原因をバイオメカニクスの視点から詳細に分析していただきました。転倒までの各フェーズにおける姿勢制御、荷重支持、重心移動の問題点が明確に整理され、各段階で生じる課題に応じた具体的な治療手法が提示され、特に、動作の微細な変化や不安定性を見極める評価の重要性、原因をフェーズごとに分解して捉えることで介入の優先順位を明確化する手法は、参加者にとって臨床応用のイメージが湧きやすい内容だったと思います。理論と実践が結びついた充実度の高い研修会と感じ、参加者からのアンケートでも臨床現場で即活用できる知見を得られたとの声も頂きました。内容がボリュームであったため、是非アーカイブ動画で再度確認して頂きたいと思います。



世界遺産姫路城マラソン2026 運営スタッフ募集案内

日時：2026年(令和8年)2月22日(日)

場所：姫路市内マラソンコース上各救護所

活動時間：各救護所にて異なる(最短2時間50分～最長8時間)

活動内容：ランナー観察、救護所応急処置対応

募集人数：25～30名程度

応募方法：兵庫県理学療法士協会→中播磨支部
→世界遺産姫路城マラソン開催について

募集期間：10月19日まで募集中





西播磨・中播磨支部合同研修会

令和7年度 西播磨中播磨支部合同研修会

認知機能障害、認知症について

－予防の観点から考える評価・介入－

こんなお悩みありませんか？

- ✓ 最近、認知症の患者に接する機会が増えたけど
- ✓ 認知機能障害にPTは何をすればよい？
- ✓ 認知症の予防ってできるの？
- ✓ 認知機能障害に対する評価は何をすればよい？



令和7年11月19日（水） 19:00 ▶ 20:30

ZOOMによるオンライン開催

講師

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
予防老年学研究部・副部長 土井 剛彦先生

申し込み

セミナー番号 : 149015
日本理学療法士協会マイページ or JPTAアプリより

定員

先着500名（定員になり次第締め切り）

参加費

兵庫県理学療法士会会員 0円
他府県士会会員 1,000円

履修ポイント

区分11 カリキュラムコード132 認知能の障害
登録/認定/専門理学療法士 1.5ポイント

お問い合わせ

兵庫県理学療法士会西播磨支部
pt-westharima@outlook.jp





令和7年度 中播磨支部 新人理学療法士 紹介

新しく仲間となった先生方です。勤務先と人数のみ掲載しました。
氏名、出身校、目指すPT像は省略してります。

○ツカザキ病院：4名

○ハーティ訪問看護ステーション安富

八家病院・城陽江尻病院・姫路赤十字病院

広畑センチュリー病院・姫路医療センター：各1名



新人アンケート結果

興味ある研修会



■ 運動器 ■ 呼吸器 ■ 脳外科 ■ 内部障害

運動器

- ・腰部の疼痛に対する理学療法
- ・ADL・QOLに直結する運動器疾患のリハビリ評価と介入戦略
- ・肩関節周囲炎に対する理学療法
- ・切断後の理学療法
- ・膝関節屈曲の制限因子

脳血管障害

- ・脳卒中片麻痺患者の歩行分析
- ・体幹の協調性が低下している患者に対する理学療法

内部障害

- ・心大血管疾患に対する理学療法

呼吸器

- ・VATS患者に対する理学療法
- ・気管支喘息患者に対する理学療法
- ・肺炎に対する呼吸理学療法





第23回姫路市医療介護連携会議 報告

1. 会議の目的と背景

姫路市全体で医療と介護の連携を強化し、「心豊かに最期まで暮らせるわが町」を実現するための地域包括ケアシステム構築を目指す。特に、2040年に向けて増加する85歳以上の高齢者の多様な課題に対応するため、多職種連携を推進していく。

2. 主要な取り組みと部会活動（令和7年度）

22の医療介護関係団体に構成される本会議では、以下の部会・委員会を中心に活動を進めていく方針が示されました。

要支援者（フレイル）対策検討部会: 要支援高齢者の自立を促すため、事業と運用の方法を検討。姫路薬剤師会からも参画の希望が寄せられた。

病院とかかりつけ医の入退院時連携推進部会: 「在宅療養者の入退院時連携ルール」の周知と、病院・かかりつけ医間のネットワーク構築を促進。

人生会議(ACP)推進部会: 市民が人生会議の必要性を理解できるよう、具体的な資料を作成し、普及啓発を強化。

2040年に向けた調査部会（新規）: 2040年の医療介護サービス需要や提供体制を見込むための調査を実施。

在宅医療・介護連携に関する相談対応検証委員会: 在宅医療・介護連携支援センターが抽出した連携課題の解決策を関係者間で確認・共有。

研修検討委員会: 各団体の研修計画を共有し、地域課題に対応する研修の実現を検討。

3. 意見交換のポイント

各団体から、今後の課題や取り組みに関する多様な意見が出されました。

多職種連携の強化: 歯科医師会やグループホーム連絡協議会、訪問看護ステーションなどから、認知症高齢者への対応やリハビリ、独居高齢者支援など、多職種間の連携が重要との意見があった。





第23回姫路市医療介護連携会議 報告

地域資源と市民の役割: 在宅での生活を支える社会資源が不十分なケースがあり、専門職だけでなく市民も巻き込んだ取り組みが必要との指摘があった。

2040年に向けた課題: 2040年をピークとする高齢者人口増加に伴う介護人材不足、介護力低下、医療・介護費増大への懸念が共有された。特に山間部ではピークが早まるため、迅速な対応の必要性が言及された。

栄養管理の重要性: 病院の管理栄養士から、退院後の在宅での栄養管理の重要性と、経済的・環境的要因による問題への対応、モニタリング不足が課題として挙げられた。

人生会議（ACP）の普及: 救急搬送時のプロトコルや、施設の入所者に対するACPの実践について、さらなる周知が必要との意見があった。県民の健康づくりを担う看護協会からも、ACPやフレイル予防の普及に貢献していく姿勢が示された。

要介護認定期間の短縮: 地域包括ケア病棟の入院料に関する改定を受け、要介護認定の結果が出るまでの期間短縮に向けた協議の場を設ける要望が出された。

4. 総括

姫路市健康福祉局長より、2040年に向けて医療・介護ニーズが大幅に増加する見込みであり、地域包括ケアシステムの深化には多職種との連携が不可欠であるとの発言があった。各部署の協議内容を市の施策に反映していく意向が示され、参加団体への協力が呼びかけられました。

5. 理学療法士に求められている役割

我々理学療法士にはフレイルやプレフレイルの高齢者に対し、その専門知識を活かして適切な運動指導や機能評価を行うこと、要支援状態の高齢者がさらに重度化するのを防ぐための具体的なプログラムや運用方法の検討に貢献すること多職種連携への積極的な参画が求められています。具体的な方法などはこの会議では提言さえていませんが、各種部会で今後の対応が決まってくると思いますので、会議の状況などは随時配信していきます。





令和7年度中播磨支部事業

令和7年度

- ★1月下旬 姫路城マラソン事前研修会
- ★2月9日 新人発表会(発表者：42名 参加者：80名)
症例検討会(発表者：2名、聴講者：45名)
中播磨支部懇親会(参加者：31名)
- ★2月23日 世界遺産姫路城マラソン2025
(救護所理学療法士：24名)
- ★8月8日 第1回中播磨支部研修会
「もう絶対に転倒させない！
～脳卒中患者が転倒するメカニズム別の治療アプローチの提案～」
参加者：222名
- ★8月8日 新人才リエンテーション
- ★8月22日 新人発表会直前説明会 (参加者：41名)
- ★9月 播磨OH! 68号 発行
- ★11月19日 西播磨・中播磨支部合同研修会
「認知機能障害、認知症について」





編集後記



朝晩めっきり涼しくなってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどの秋を堪能されていますか。68号を無事に発行することができました。これも原稿依頼を快く引き受け、支部活動に協力して頂ける先生方のおかげと感謝しております。今後も御協力をお願いすることがあると思いますが、宜しくお願い致します。

昨年度の新人発表会では久しぶりの対面、その後の懇親会等会員同士の交流が再び実施できたことがうれしく思っております。今後より一層の交流の機会を作れるように努力してまいります。会員の皆様には今後ご迷惑をおかけするかもしれませんが、これからも運営委員一同結束し、取り組み解決してきます。今後とも中播磨支部活動および運営委員を宜しくお願い致します。

機関誌担当 かんざき訪問看護ステーション 鴨谷和明

会員の皆様へお願い

会員の異動動向や新人の就職動向の把握が県士会および支部の運営委員だけでは困難となってきています。近隣にリハ部門開設予定・開設した病院や新人が就職予定・就職した病院はありませんか？

何か情報がありましたら、下記メールアドレスまでご連絡下さい。

中播磨支部事務局 段医院 木村公一

次回発行予定をお楽しみに！

